いちのみやの芸術文化

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

■ 特集「福塚前遺跡発掘調査速報」

■ 「エッセイ」
写真は自己のイメージの確立である
写真部門　一宮写真協会　夫馬　勲

「活　動」
一宮謡曲同好会の紹介
謡曲部門　一宮謡曲同好会　林　昭

■ これからの催し

発掘調査風景
（今伊勢町・福塚前遺跡）

2019.3
第48号

一宮市芸術文化協会

一宮を学ぶ 特集

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

福塚前遺跡発掘調査速報

一宮市では、平成三十年十一月五日から平成三十一年三月三十一日まで、市道福塚線拡幅工事に先立ち、福塚前遺跡（今伊勢町馬寄）の発掘調査を行っています。本調査区は、南北に一六〇m、東西に一〇mと縦に長く、調査区の中心を市道が通っています。そのため、市道を挟んで東面と西面に調査区を分けて調査を始め、現在（平成三十一年一月時点）は、西面の調査を進めています。三月上旬には調査はほぼ終了し、埋め戻しを始める予定です。

▲調査風景
溝の中を掘削している様子（写真上）
遺構の表面を覆っている土を削り取っている様子（写真下）

発掘に至る経緯

福塚前遺跡の存在が明らかになったのは、昭和四十六年、宅地造成工事の時でした。近くの住民が、工事の土取り跡に井戸や弥生土器の破片があることに気づき、博物館の前身である市史編さん室に連絡、そして調査が行われました。当時の調査では、中世の井戸と弥生土器の壺や甕の破片が確認されています。また、この調査の後で、石器や弥生土器の破片が近くの畑の表面から見つかりました。しかし、これ以降、今回の発掘調査に至るまでの間、調査は行われておらず、遺跡の詳しい性格はよくわからないままでした。

現在、発掘調査を行っている範囲は、昭和四十六年に遺跡が見つかった箇所からは約一〇〇m離れています。それでも遺跡内

▲福塚前遺跡近辺地図（500分の1）

であること、また市道という半永久的に残る構造物を作るため、市道の拡幅範囲の中で何箇所か試掘をする確認調査を平成三十年一月末～二月にかけて行ったところ、田んぼの下から遺構（昔の人の生活の痕跡）や遺物が確認され、今回の発掘調査に至りました。

発掘成果速報

まだ調査は終了していませんが、十一月から現段階までの調査成果を速報という形でお知らせいたします。

まず、調査区全体の傾向として、遺構が多く見つかっています。中でも数が多かったのが溝で、須恵器の短頸壺が埋まった幅二ｍほどの溝や、円形状にめぐる周溝のような溝も確認されています。また、掘られている方向に規則性のある方形土坑、土坑墓と推測される炭化物と須恵器の蓋が入った土坑といった溝以外の遺構も見つかっています。

出てきた遺物は、須恵器、土師器、山茶碗といったやきものが割合としては高く、そのほとんどが破片で見つかっています。破片の中でくっつくものがあるかどうかは、調査後、整理の段階で明らかになっていきます。他には、刻み文様が入った滑石製の紡錘車が一点出ており、今後この遺跡の性質を考える上で重要になってくるかと思われます。また、江戸時代くらいのやきものと同時に馬とおぼしき動物の骨、中世のものとおぼしき何らかの使用跡がある石も見つかっています。

▲短頸壺（写真上）
刻み文様の入った紡錘車（写真下）

出てきた遺物から判断するに、遺跡の時代は、古墳時代から中世だと考えられます。昭和四十六年の調査では弥生土器が多く見つかっていますが、今回の調査では二点しか確認できていません。調査終了後、見つかった遺物の整理や、遺構図面の整理を行い、発掘調査報告書の刊行に向けて動き始めます。その段階で新しい事実がわかってくるはずです。時間がかかる作業ではありますが、今後の動向にご期待ください。

（一宮市博物館　瀧　はる香）

▲上空から見た遺構、円形状の溝（直径約10ｍ）とその上から掘られた方形土坑

エッセイ

写真は自己のイメージの確立である

写真部門　一宮写真協会　夫馬　勲

写真を写すという行為は特別なことではなくなり、シャッターを押せば写ってしまう時代である。とにかく、だれがシャッターを押しても良く写る。記録メディアが銀塩フイルムからデジタルになり、写真を取り巻く環境が激変した。高性能なスマートフォンで一億総カメラマン時代になり、写真的な眼と写真そのものは、われわれの日常空間にどんどん侵入してきた。もはや、「写真術」ではなく「写真」そのものが存在している。

過去の写真を見ると、写真に対する方法論は、眼で見る映像に近い写真を写そうとする自然主義的なものであった。何を見せ、何を語るかでなく、専ら技術主義的な方法であった。また「何を表現するのか」という撮影の目的に対し、「なぜ『写真』という方法を用いるのか」という方法意識は、さほど重要視されなかった。「写真を写す」という行為について考察することは問題外であったと思う。

今日では写真家も他の表現分野の作家と同じく、その人のスタイルがある。自己の表現において何をどのように表現するかを考える。その目的のために行為のスタイル、写す対象を分析し、そこで得た自己のイメージを確立させたものが写真なのである。

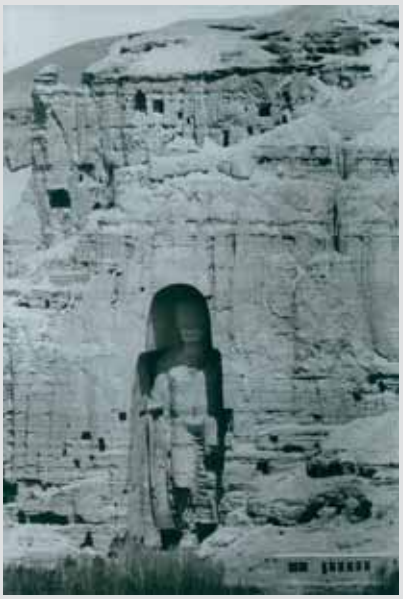
さしあたって写真のジャンルを挙げてみると報道、人物、広告、山岳、観光、天体、医学、科学、軍事など他にも相当数がある。特に報道や広告写真は、最も難しい自己表現がひしめきあっている。今日の写真では、このように分類して写真を考えることは無意味になったと思う。大切なことは、自分の体質に合った写真ジャンルの中から、テーマをどう考えるか、それを自分の中にどのように存続させるかである。

私がいつも自分に言い聞かせていることを紹介したい。

「写真は、現実をシャープにみつめ、さらに現実を正確に写し撮ることからはじまる。しかし、写真はあまりにも現実に忠実な記録であるために、すぐに古くなる。新鮮な感動を得る写真表現は写真家自身の内にある…」

撮影地：与論島（鹿児島県）
撮影年：1980年代
風葬は1902年に禁止され、土葬へと変わった。穢れを落とすため、一度土葬を行った後、死者の骨を海水で洗い、かつての風葬墓跡に骨を安置する。現在もその一部が残っている。

撮影地：ヴァーラーナシー（インド）
撮影年：1990年代
ヒンドゥ教の聖地。ここで死にガンジス河岸で火葬され灰を河に流されると、輪廻よりの解放と、天国への昇天を約束される。そのため、年老いた巡礼者が集まる。写真は身内の亡骸を見せものにして物乞いをする子供。



撮影地：バーミヤン渓谷（アフガニスタン）
撮影年：1990年代
バーミヤンは標高2,500mの高地にある。7世紀の唐の僧、三蔵法師が訪れ『大唐西域記』に記したように仏教が盛んであった。渓谷の崖面に彫られた巨大石仏は、高さ55m、5･6世紀頃の建立と推定される。2001年3月、イスラム原理主義タリバンにより破壊された。

そんな私の写真から、三つを紹介したい。これらは私の写真家としてのテーマであるこの世界の諸行無常をイメージして撮影した写真である。写真から私のイメージが伝わることを期待したい。

活動

一宮謡曲同好会の紹介

謡曲部門　一宮謡曲同好会　林　昭

一宮謡曲同好会は一宮市内の謡曲愛好者の十のグループで構成された会員数約百名の団体です。日ごろの活動はグループ毎で稽古を行っており、その成果を春・秋の年二回の大会で発表しています。そのうち秋の大会は一宮市芸術祭に協賛して開催しております。

名古屋能楽堂で舞囃子の発表会

謡曲とは日本の伝統芸能である能楽のうち謡いだけを演じるものです。能楽は、歌舞伎・人形浄瑠璃と共に我が国の三大舞台劇として、室町時代に大成されました。その後一度も絶えることなく江戸時代には武家の教養として発達し、明治になると大衆演劇として、庶民の間の趣味として受け継がれて来ました。能楽は舞台劇であり、おもに能楽堂の舞台で複数の人物が登場する物語を演じます。前後二場面に分かれている物語には、場所と季節が設定されており、主人公は能面と装束を付けて演技をします。その他、作り物や小道具の舞台装置があり、それらが全体として幽玄の世界を見せてくれます。私たちは時々能楽堂に行って、プロの能楽師が演じるこのような能楽を観ることを楽しみとしています。能楽は、ただ観に行くだけであれば何の制約も無く、普段着のまま気楽に行ってもかまいません。近くですと、名古屋城正門前の名古屋能楽堂が便利です。毎日は開演していませんが、入場無料の時もあります。ものは試しに一度行って観てください。

能　面

私たち趣味で稽古しているのは謡曲のうちで、もっとも基本の「素謡」です。素謡は稽古本に従って、独特の節回しではありますが、腹から声を出して謡います。他にも「仕舞」「舞囃子」などを稽古している人もいます。仕舞は一曲の中の一部分を謡いに合わせて舞います。普段はこれを十人前後の各グループが、それぞれ近くの場所で稽古をしています。

素謡の稽古風景

謡曲をこのように紹介すると、何か難しくて自分には縁が無いと思われるかもしれません。謡曲なんて聞いたことも見た事も無いという人も多いと思います。敷居が高いように感じられるかもしれませんが、全くの初心者も多数おられます。謡曲を初めて習う場合、道具は何も要らず、服装も全く自由です。慣れて来ると稽古本や扇、白足袋などが必要となりますが、いずれのグループも経験者がおり、特に初心者にも親切にお教えいたします。腹の底から大声を出して謡うことは、健康にも大変よいとされています。またグループメンバーの懇親の場も楽しみの一つです。是非この機会に一度覗いてみてください。

仕舞の稽古風景

文化情報

「小宇宙」　松岡 孝司

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館・尾西歴史民俗資料館について
○入館は午後4時30分まで
○月曜休館（休日の場合は開館）、休日の翌日休館（ただし、土曜日・日曜日または休日の場合は開館）

一宮市博物館 ☎(46)3215

特集展示「川合玉堂の名品」

日時◎前期
4月9日(火)～5月12日(日)
後期
5月14日(火)～6月30日(日)

内容◎一宮市ゆかりの日本画家・川合玉堂の作品を紹介します。

会場◎博物館2階特集展示コーナー

観覧料◎常設展観覧料
一　般　200円
高大生　100円
小中生　50円

※20名以上の団体は2割引
※市内在住の満65歳以上で住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等（シルバー優待証明カード、免許証等）を提示の方は無料。
※市内の小・中学生、身体障害者手帳を持参の方（付添人1人を含む）は無料。

民俗芸能公演

日時・内容◎
①5月18日(土)
市指定・無形文化財（芸能）「宮後住吉踊」（宮後住吉踊保存会）
演目：豊年・すがわき・かっぽれ・おんど・五十三次
②5月19日(日)
県指定・無形民俗文化財「ばしょう踊」（ばしょう踊保存会）
③5月26日(日)
市指定・無形文化財（芸能）「島文楽」（島文楽保存会）
演目：「壺坂霊験記　山の段」
※時間は各回とも午後2時～（開場午後1時30分）

会場◎①一宮市博物館　講座室
②一宮市博物館　中庭
③妙興寺本堂

観覧料◎無料

定員◎各回60名（午後1時から整理券を博物館受付で配付）

三岸節子記念美術館 ☎(63)2892

コレクション展（常設展）「節子とエッセイに記された芸術家たち」

日時◎4月9日(火)～6月23日(日)

内容◎節子のエッセイには、その生涯で多くの芸術家たちに影響を受けたことが記されています。彼らとのかかわりについて、節子自身の言葉とともに紹介します。

観覧料◎一　般　320円
高大生　210円
小中生　110円

※市内の小中生、65歳以上無料。

GW特別企画「カフェ・デュ・ミュゼ」

日時◎4月27日(土)～5月6日(月)

内容◎喫茶コーナーで節子が過ごしたフランスのカフェをイメージしたイベントのほか、ロビーで気軽に体験できるワークショップなどを開催します。
①ジャズライブ
4月27日(土)　午後1～2時
②限定パン販売
4月27日(土)、5月4日(土)
午前10時～
③フォトプロップスをつくろう
期間中毎日

尾西歴史民俗資料館
☎(62)9711

休館のお知らせ
平成31年6月7日㈮まで(予定)
※休館中のお問い合わせは月曜日から土曜日(祝休日を除く)午前9時から午後5時まで

一宮市観光協会
☎(28)9131

「第51回一宮桜まつり」
日時◎3月25日㈪～4月10日㈬予定
内容◎市内桜の名所7カ所を会場として開催。いずれも入場料無料。大江川緑道では午後6時～午後9時30分にライトアップ。
会場◎大江川緑道ほか
入場料◎無料

「第42回一宮つつじ祭」
日時◎4月27日㈯～28日㈰
午前10時～午後4時
内容◎戦国武将浅野長政の屋敷跡に整備された浅野公園に、1、000株以上のツツジが咲き誇ります。ブラスバンドや和太鼓の演奏をはじめ、数々のイベントも開催されます。
会場◎浅野公園
入場料◎無料

「第53回全国選抜チンドン祭り」
日時◎5月26日㈰午前9時～午後5時
内容◎全国選抜チンドンコンクールやパレード、ステージイベントを行います。
会場◎萩原商店街
入場料◎無料

「第18回花しょうぶまつり」
日時◎6月8日㈯～9日㈰
内容◎園内に38種類約1、700株の花しょうぶがあり、5月下旬から6月中旬にかけて見事な花を咲かせます。琴・太鼓などの演奏もあります。
会場◎萬葉公園　高松分園
入場料◎無料

「第19回尾西あじさいまつり」
日時◎6月8日㈯～15日㈰
内容◎会場となるあじさい園に、70種類以上8、000株のあじさいがあり、ライトアップもあります。和太鼓・大正琴などの演奏も行われます。
会場◎御裳神社
入場料◎無料

一宮市芸術文化協会加入団体の催し

『市民短歌教室』
【問合せ先　真清短歌会】
☎(51)3570
日時▼3月10日㈰・4月14日㈰
6月9日㈰　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』
【問合せ先　真清短歌会】
☎(51)3570
日時▼5月10日㈮　午前9時～
行先▼長浜城、黒壁スクエア(長浜市)他
対象▼どなたでも
定員▼35名(定員を超えた場合は抽選)
参加料▼2、500円(昼食付き)
申込み▼4月19日㈮までに事務局(☎85―7075)へ連絡

『濤聲會漢詩講読会』
【問合せ先　一宮漢詩濤聲會】
☎(78)7953
日時▼3月23日㈯・4月27日㈯
5月25日㈯　午前10時～
会場▼中央図書館
内容▼漢詩文の基本的な読み方をはじめ、作者の時代背景にも触れながら初めての方にも分かりやすく「唐詩三百首」を解読します。(初心者歓迎)
講師▼三島徹氏(東洋文化振興会会長)
参加料▼月2、000円
申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』
【問合せ先　一宮市民俳句教室】

☎(73)5504
日時▼3月24日(日)・4月28日(日)
5月26日(日)　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。
（初心者歓迎）
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

【問合せ先　尾西俳句会】
☎(68)2397
日時▼5月14日(火)　午前9時～
行先▼岡崎城、大樹寺（岡崎市）他
対象▼どなたでも
定員▼35名（定員を超えた場合は抽選）
参加料▼3、000円（昼食付き）
申込み▼4月19日(金)までに事務局（☎85－7075）へ連絡

『市民川柳教室』

【問合せ先　一宮川柳社】
☎(44)7598
日時▼3月24日(日)・4月28日(日)
5月26日(日)　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。
（初心者歓迎）
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『濤聲會作詩教室』

【問合せ先　一宮漢詩濤聲會】
☎(78)7953
日時▼4月2日(火)・5月14日(火)
6月4日(火)　午前10時～
会場▼中央図書館
内容▼漢詩文の作り方の指導をはじめ、持ち寄った創作詩の添削の検討を会員間で行います。（初心者歓迎）
参加料▼年3、000円
申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先　一宮狂俳壇連盟】
☎(78)5002
日時▼4月13日(土)・5月11日(土)
6月8日(土)・午後1時～
（4月は午前9時30分～）
会場▼葉栗公民館
内容▼各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。（初心者歓迎）
参加料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先　一宮民俗芸能連盟】
☎(73)5221
日程▼4月21日(日)
会場▼石刀神社（今伊勢町馬寄）
内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先　一宮謡曲同好会】
☎(62)0966
日時▼4月21日(日)午前9時30分～
会場▼尾西生涯学習センター
内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表
入場料▼無料

『サロンコンサート』

【問合せ先　一宮音楽家協会】
☎(87)2827
日時▼5月12日(日)　午前11時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼一宮音楽家協会会員による演奏会です。
二台八手　ギロック作曲
「シャンペン・トッカータ」
竹久夢二作詞・多忠亮作曲
「宵待草」など
入場料▼無料

『2019 一宮総合美術展』

【問合せ先　生涯学習課】
☎(85)7075
日時▼6月6日(木)～9日(日)
午前10時～午後5時（9日は午後4時30分まで）
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼選抜された作家の日本画・洋画・彫刻立体・工芸・デザイン・書・写真の作品を展示します。
入場料▼無料

『尾西ウィンドオーケストラ 第84回定期演奏会』

～上越市民吹奏楽団を迎えて～

【問合せ先　尾西ウィンドオーケストラ】
☎(76)1161
日時▼6月16日(日)　午後2時～
（開場は30分前）
会場▼尾西市民会館
内容▼新潟県上越市で素晴らしい活動をしている上越市民吹奏楽団を招いての楽しいジョイントコンサートです。皆さんお誘い合わせてお出かけください。
入場料▼一般500円
中学生以下無料（要整理券）

［題　　字］武　山　翠　屋
［編集・発行］一宮市芸術文化協会
［連 絡 先］一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒491-8501　愛知県一宮市本町２丁目５番６号
TEL 0586-85-7075　／　FAX 0586-73-9213